

# 令和5年度の教育活動等に対する学校関係者評価

令和 6年 3月 1日

学校法人象山学園象山幼稚園長 秋山斌

学校法人象山学園象山幼稚園学校関係者評価委員会

## 1. 本園の教育目標

- ・元気で明るく丈夫な子
- ・素直に挨拶ができ友達と楽しく遊べる子
- ・よく考えて伸び伸びと自分を表現できる子

## 2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

園内研修を通して、教育の質を高める。

安全対策として、災害時の訓練を充実させるとともに、登降園や園バスの乗降、園活動における園児の個別確認を徹底する。

## 3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
	評価点	幼稚園としての反省と改善策	評価点	意見
保育者としての能力向上	A	子どもの姿について話し合う機会として職員会議を実施している。職員全員で援助や指導方法の見直しをし、各園児への指導方法に一貫性を持たせている。今年度は、公開保育による研修会 ECEQ をおこない、園内研修を充実させ更なる質の向上を目指した。	A	保育を互いに見せ合うこと、特に他園の教諭と関わることは刺激となり、自園の内容見直しに効果的である。公開保育後の話し合いで、保育のヒントをもらえたことは大きくプラスになったと思う。

<p>保育・教育の計画性 保育・教育の在り方 子どもへの対応</p>	<p>A</p>	<p>幼稚園教育要領の理解を深め、現実の教育に沿うよう具体的な場面について話し合いを行っている。また、都度の職員会議等や学年の打ち合わせを通じて年間の指導計画について全員で理解を深め、月間計画週間計画を作成している。</p>	<p>A</p>	<p>食育に力を入れ、幼稚園の畑で野菜を育てたり、収穫したものを食べるなどの様々な取り組みを継続的に行っていることは大変評価できる。卒園児の様子を見ても普段の生活の中であいさつのできる元気でしっかりした子が多い印象がある。今後も継続的に教職員間での理解を深め、保育を進めていってほしい。</p>
<p>地震防災対策 安全対策</p>	<p>A</p>	<p>園児の通園バス乗車時の災害避難について、消防署員にアドバイスを頂いて避難方法を再確認した。緊急地震速報受信機を利用した避難訓練を毎月行うことで経験を重ね、園児もあわてることなく落ち着いて避難を行うことができるようになった。</p> <p>また、近年のバス取り残し事故を契機として園バスに降車確認用警報機を新たに設置し降車確認をより厳重にするとともに、園児を対象とした説明、訓練を実施したほか、登降園や園外活動などにおける都度の園児確認について職員間でマニュアルを共有し、見逃しによる事故の予防を図っている。</p>	<p>A</p>	<p>子どもたちの命に関わる問題で、近年の事例から、保護者も園の取り組みに関心が高いと思われる。今後もしっかりと取り組んでいただきたい。</p>
<p>地域の自然や社会との関わり</p>	<p>B</p>	<p>子育て支援として、未就園児に園庭を開放して自由に遊べるようにしている。コロナの影響で室内開放やイベントを減らしていたが、次年度は増やして遊びに来やすい環境を整えたい。地域の方とはもちつきや運動会等の行事で交流をしているが、今年度は地域の老人ホームとの交流ができなかった。</p>	<p>B</p>	<p>環境が整った幼稚園は地域の子どもが安心して遊びに行ける場所になっていると思われる。</p> <p>学校は地域とのつながりが深く、自治会や老人会で児童が喜ぶようなイベントを催してくれていた。コロナ禍を経て地</p>

				<p>域活動も変容してきているが、自治会長等を介して打診してみてもどうか。</p> <p>お年寄りと接する機会も子ども達にとって刺激になるので、交流をもっていたけるとよい。</p>
<p>保護者への対応園に対する保護者の満足度の把握</p>	A	<p>保護者にアンケートを実施し、保護者の求める幼稚園の姿・要望を聞いている。今までもアンケート結果を踏まえ、できる範囲で要望を取り入れ、保育内に取り入れてきた。保護者の園全体に対しての評価は概ね良いが、少数意見も取り入れて今後反映させていきたい。</p>	A	<p>社会の傾向として、昔と比べて個別事情に応じた難題の申し入れも増えていると思われる。全ての意見を取り入れることは困難と思われるが、園が前に進んでいけるよう柔軟に対応していただけるとよい。</p>

#### 4. 今後取り組むべき課題

子どもの自主性・感性をはぐくむための環境づくりを継続する。  
園内での職員研修を継続かつ充実させ、更なる保育の向上を図る。  
地域との関わりを深める機会について検討し実施を目指す。